

(会 告)

社団法人日本超音波医学会
第3回特別学会賞受賞者

Ultrasound Prize of the Japan Society of Ultrasonics in Medicine



町井 潔 (1927-)

町井潔氏は1927年広島県に出生されました。お父君は町井剛氏、お母君は千代子様です。かをる夫人との間に長男聡氏と長女麻子さんがおります。現在は東京都文京区大塚2-4-8-1101にお住まいであります。町井潔氏は1952年3月東京大学医学部医学科を卒業。東京大学医学部附属病院にて実地修練を終了後東京大学医学部田坂内科に入局、1957年同内科助手、1960年に東京大学医学部において医学博士の学位を取得。その後、吉利内科に入局され、1970年に社会福祉法人三井記念病院循環器センター内科部長として赴任されました。1984年に東邦大学医学部教授（内科学第三講座、附属大橋病院長）に就任され、教室の心エコー図検査や本法による研究、さらにインターベンション治

療の発展に寄与しました。循環器分野を中心に幅広い学会活動をされ、日本超音波医学会理事・評議員をはじめ、日本心臓病学会理事、日本内科学会評議員、日本循環器学会評議員、日本老年病学会評議員、日本集中治療学会評議員など数多くの関連学会役員に就かれ、わが国の超音波医学はもとより日本の心臓病学の研究、治療、検査に多大な貢献をされました。

日本超音波医学会には設立2年後の昭和38年に入会し、昭和49年から評議員となられ、昭和50年からは理事になられ、超音波ドプラ法研究部会会長も務められました。特に昭和59年には第44回研究発表会（現学術集会）会長を務められ、その後も理事、評議員、各種委員会委員並びに委員長などを歴任し、我が

社団法人日本超音波医学会の現在の繁栄に貢献いたしました。また、山口徹（東邦大学教授）、平井寛則（東邦大学教授）、桑子賢司（帝京大学教授）、鈴木真事氏等に代表される多くの研究者を育成され、超音波医学、循環器病学の発展に尽くされました。

町井潔氏はわが国における循環器学全般に亘りすぐれた業績を残しておりますが、特に臨床循環器領域では超音波医学に多大な貢献をしております。氏は東京大学医学部を卒業され、工学機器の臨床医学への応用に興味を持たれ、心電図、心音図の自動診断に始まり、超音波医学分野では心疾患の診断と心機能評価について豊富な症例数を用いて、わが国における臨床超音波医学の基礎（基準）を築いたといっても過言ではありません。

1959年から1969年にかけて心音に関する研究では自動心音分析器を考案製作し、当時の聴診のみの診断に、心音の時相分割に頸動脈波曲線を利用するなどして、心音図学に画期的な自動診断方法を取り入れました。さらにそれまで主観的で曖昧な心雑音の分類を、雑音の持続時間（duration）や音の強さ（intensity）、音の高さ（周波数 frequency）により客観的に分類するなどして当時の心疾患の診断率を向上させました。また、その頃わが国のICU、CCUの装置や設備は欧米に比べて著しくおくれており、心疾患による死亡数も決して低くはありませんでした。欧米ではすでにCCUがルーチンに運用され、すぐれた治療効果をあげており、氏はそのような現況を危惧し、早急にわが国のICU、CCUの設置の必要性を説き、特にCCUの普及と発展に寄与しました。

超音波医学における業績

既述の業績のほか、氏の超音波医学に関する業績全般についてみると、氏は超音波法の臨床応用に関し、わが国の偉大な超音波医学関係者の一人と言えるでしょう。1963年すでにドプラ法の臨床応用の一つとして、心室壁シグナルの周波数分析について研究報告を

しています。この頃から氏は超音波法の臨床応用に強い関心を持たれ、その後、膨大な臨床例を基に1973年に「心臓の超音波検査法—UCG入門」（中外医学社）を出版し、わが国の現代心エコー法の普及発展の基を築きました。1977年にはこれを全面改訂して、説明図を多く取り入れ初心者や検査技師にも理解しやすくし、心エコー法を彼らにとってごく身近なものにしました。その後、断層エコー装置の著しい進歩に伴い、このような装置を用いてさらに多くの症例と貴重な症例を記録し、詳細な解説を付し、1981年には新たに「断層心エコー図」（中外医学社）を出版されました。両著はそれまで、一部研究段階に留まりがちであった心エコー法を臨床の場に広げ、特に「心臓の超音波検査法—UCG入門」と「断層心エコー図」は心エコー法による心臓病診断法のテキストとして、超音波医学を志す者或は循環器医の初心者から熟練者まで広く活用されました。

氏の業績を振り返りますと、その最大の業績は断層エコー装置の開発、改良にあったかもしれません。初期の静止断層法では日常臨床に不向きであり、臨床的に役立つのは心臓の実時間観察であるという信念の基に、メーカーと共同で新機種の開発を手がけ、ついに1977年に完成した試作1号機が、以前の装置に比べ一段と鮮明な拍動する心臓の断面を捉えるに至りました。以上のような氏の心臓超音波法の発展にかけた情熱と執念は、我が国における心臓超音波法の発展の一因になっているに違いありません。

主な著書

- *心臓の超音波検査法 中外医学社 昭和48(1973)年出版
- *心エコー図症例集 中外医学社 昭和55(1980)年出版
- *断層心エコー図 中外医学社 昭和56(1981)年出版

Kiyoshi MACHII, MD, PhD (1927-)
Pioneer in Echocardiography in Japan Winner of the Ultrasound Prize
Awarded by the Japan Society of Ultrasonics in Medicine

Kiyoshi MACHII was born in Hiroshima, Japan on 24 February 1927. His father, Tuyoshi Machii, was born in Igaueno city, Mie prefecture; his mother, Chiyoko Machii, in Ise city, Mie prefecture. Machii married Chiyoko Funahashi in 1967. Chiyoko was born in Tokyo and bore Kiyoshi a son, Satoshi, and a daughter, Asako. Today Machii lives at 2-4-8-1101 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan.

Machii graduated from the Tokyo University School of Medicine in 1952. He then studied internal medicine and cardiology in the First Department of Internal Medicine of Tokyo University and received his doctorate in medical science (PhD) in 1960. He served as chief of the Cardiovascular Center of the Mitsui Memorial Hospital in Tokyo from 1970 to 1984. He was interested in echocardiography and suggested the need make it popular by spreading scientific information about it. He published *Clinical Echocardiography*, a textbook in echocardiography, in 1973. This marked the memorable first step in the growth of echocardiography in Japan. After years of pioneering work in echocardiography, he accepted a professorship in the Third Department of Internal Medicine at the Tohou University School of Medicine in 1984 and served as the director of Tohou Ohashi Hospital. Machii worked selflessly for the Japan Society of Ultrasonics in Medicine, the Japan Circulation Society, the Japan Society of Cardiology, the Japan Society of Internal Medicine, and many other medical societies. He served as president of the 44th Scientific Meeting of the Japan Society of Ultrasonics in Medicine (JSUM), where he served on the executive board and was a councilor and an emeritus member of the Society.

References

1. *Clinical Echocardiography. Chugai-igaku* [in Japanese]; 1973.
2. *Atlas of Echocardiography. Chugai-igaku* [in Japanese]; 1980.
2. *Two-dimensional Echocardiography. Chugai-gaku* [in Japanese]; 1981.
3. Echocardiographic Left Ventricular Volume Determination by Direct Measurements of the Major and Minor Axes. *Japanese Circulation Journal* 1977; 4; 501-505.
4. Real-time cross-sectional echocardiography in ischemic heart disease. *Second Meeting of the WFUMB '79. Excerpta Medica, Amsterdam*; 1980. 118-125.
5. Cross-sectional Echocardiographic Observation of the Short Axis Views of the Left Ventricle in Hypertrophic Cardiomyopathy. *Japanese Heart Journal* 1980; 21: 297-305.
6. Right ventricular diastolic function in coronary artery disease assessed by pulsed Doppler echocardiography. *Journal of Cardiology* 1984; 14: 204-207.